

しんぼうさいどう 心房細動について

はじめに

心房細動とは心臓を動かす電気信号の乱れです。心臓は心臓のある特定の場所から電気信号を出すことによって、心筋を規則正しく動かすことで全身に血液を送っています。しかし、何らかの原因によってこの電気信号が乱れると、心筋の動きがバラバラになり、細かく不規則な動きをします。これが心房に起こると「心房細動」と呼びます。(図1) 具体的には心房細動は複数の異常な電気信号が心房の中を不規則に走り回る状態です。(図2)



図1

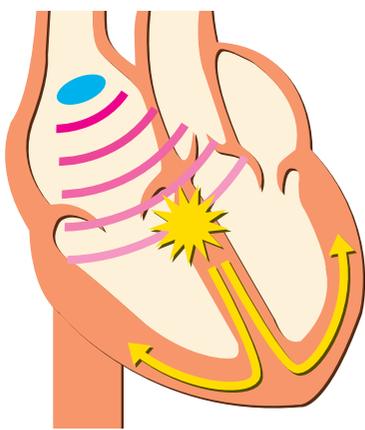
正常心電図の一例



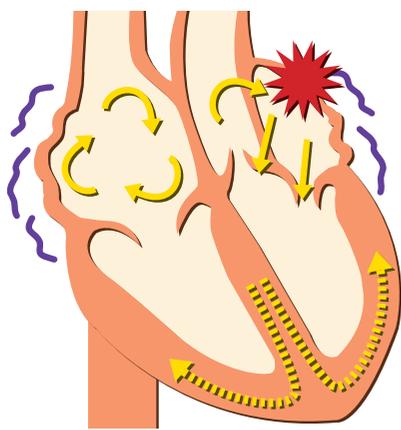
心房細動心電図の一例



図2



正常



心房細動

種類

心房細動には時々起こる「発作性心房細動」と長時間、常に心房細動である「慢性心房細動」があります。

疫学

心房細動は高齢者の不整脈といわれていますが、日本は高齢化が進んでおり、心房細動患者が増加していくと予想され、2005年の報告では、2000年に慢性心房細動は約72万人といわれ、2020年には100万人を超えると予想され、発作性心房細動まで含めると、かなりの数になると考えられます。

症状

脈が乱れていますので不快感、動悸、胸の痛み、またふらつき、体がだるいという訴えをします。慢性心房細動だと症状が弱く自分で感じる症状が和らぐことがあります。また、著名人が心房細動で脳梗塞を起こしたというニュースを聞いたことがあるかと思いますが、言葉がもつれる、手足が不自由になる、意識がおかしい等の脳梗塞の症状が出る場合があります。

原因

2007年の日本人の心房細動の統計ではもともとの心臓の病気(心筋梗塞、狭心症の冠動脈疾患や心臓弁膜症、心筋症)と高血圧、糖尿病、などにかかっている方に多く、また、年齢が高齢だというだけで心房細動になり、検査しても原因の分からないこともしばしばあります。アルコール、コーヒー、過労、精神的ストレス、などが引き金になることもあります。不規則な生活習慣と強いストレスによっても起こりますから、自律神経の活動も関与しています。

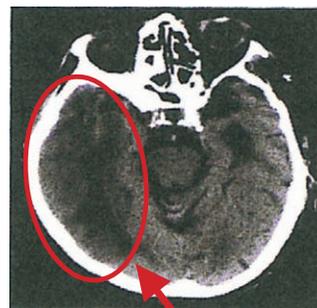
危険性

心房細動イコール危険!ではありませんが、様々な不快な症状が多いため生活がしにくくなります。また、心拍数が極端に早かったり、遅かったりで、失神や心不全を起こす場合には、至急に治療が必要です。また、一番気をつけなければいけないのが、「脳塞栓症」という脳梗塞です。心房細動により心房内に、よどんだ血液が溜まることにより血栓(血の塊)ができやすくなり、脳のほうへ流れていくと脳塞栓になります。脳血管の太い血管(中枢部)に詰まりやすいので広汎な脳梗塞、重症になることが脳塞栓にかかった著名人のイメージからも分かるかと思えます。(図3)

図3

心房細動による脳梗塞

(84歳 男性)



右大脳半球。広範囲の脳梗塞の部位



(財)心臓血管研究所 附属病院 提供

治療

治療は症状や病状によってそれぞれ違いますが、おもに症状が強いか、発作性心房細動か、慢性心房細動か、また、そのほかに病気がないか